

支部の自立化を目指した取り組みと課題



広島大学 教授
高橋 勝彦

西日本支部長を仰せつかっております高橋勝彦です。西日本支部は、中国5県、四国4県、九州・沖縄8県、合計17県にわたります。2023年5月23日時点の会員数合計107名、10社です。2017年10月、第47年度から前任の長坂康史支部長の下、支部活動を始め、事業所見学会を各年度1回、およびJSQC規格講習会を各年度1、2回開催しております。

しかし、中部支部や関西支部とは異なり、支部事務局も支部予算もありません。2020年10月から支部長を引き継がせていただいた折には、当時の二橋岩男会長から、西日本支部の自立化を目指して取り組むようにとご指示いただきましたが、時まさにコロナ禍、当初1年間は満足に活動できませんでした。

1年経過後、永田靖会長、古谷健夫理事が西日本支部に来訪され、関連する活動を進めている中国地区品質経営協会の菖蒲田清孝会長（マツダ（株）会長）と面談し、学会支部との連携など協議しました。

この協議を踏まえて、支部活動や実施体制など検討してきました。古谷理事には中部支部の状況、熊井秀俊理事には本部の事業広報委員会の状況を伺いながら、まず支部役員として、岡山商科大学の西敏明先生には前期より引き続きお願いし、トヨタ自動車九州（株）の高倉宏氏、マツダ（株）の兼森忍氏に加わっていただきました。さらに、2022年からは、（株）デンソー九州の野坂倫保氏にも加わっていただいております。次年度からは、（株）麻生 飯塚病院の福村文雄先生にも加わっていただく予定です。支部役員の皆様とは、オンラインによる打合せを2022年1月よりこれまで延べ10回お願いしてきましたが、先日、初めて対面にて打合せいたしました。広い地域の支部で遠距離ではありますが、やはり対面の打合せも重要と再認識いたしました。

支部活動としては、まずは、これまで通り、事業所見学会を年1回実施することから始めておりま

す。2022年7月28日にトヨタ自動車九州（株）をオンライン見学させていただきました。合わせて、同社の米岡様と中村様の著書「TQM推進によるビジョン経営の実践—デミング賞・同大賞への挑戦を通じたレクサス工場の進化」に関して、お二人にご講演いただきました。オンラインで実施したこともあり、全国から49名の方々にご参加いただき、大変盛会となりました。2023年8月4日には、マツダ（株）を現地で見学させていただきました。さらには、2024年には（株）デンソー九州、2025年には（株）麻生 飯塚病院の見学も内諾いただいております。支部内の事業所を見学させていただき、参加の皆様にとって有意義な活動となるようにと祈念して活動を進めております。

以上がこれまでの取り組みですが、自立化に向けて活動の拡充と支部事務局整備が課題、特に前者が優先課題と考えております。

事業所見学会は、主に産業界で実践されている品質管理を見学させていただき、産業界の叡智やノウハウなどについて、産業界や大学などへの流れを促す活動といえます。組織学習には実践からの学習と同時に概念化や理論化が必要不可欠といわれていることから、大学などの理論や技術の産業界への流れを促す活動も期待されます。支部会員の内、大学などの関係者は19名と多くないことから、現状、研究発表会の開催は難しいと考えておりますが、東日本支部のクオリティトークや関西支部のQCサロンのような、大学などの会員と産業界の会員との交流や意見交換を促す活動を実施できないか、検討していきたいと考えております。

以上、西日本支部の自立化を目指した取り組みと課題を述べさせていただきました。会員の皆様のご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。